平成 28 年度　東京都内湾水生生物調査　2 月稚魚調査　速報

●実施状況

平成 29 年 2 月 9 日に稚魚調査を実施した。天気は雨で、気温 4.0～5.0℃、北よりの風 2.5～3.2m/sec で海は静穏であった。調査当日は中潮で、干潮が 10 時 01 分、満潮は 15 時 39 分であった（東京都港湾局のデータ）。

魚類の種類数は 12 月調査と同様に少なかったものの、アユ、ボラ、スズキの仔稚魚が確認され、春の到来を感じさせる結果が得られた。また、お台場海浜公園では抱卵したビリンゴが確認され、今後の仔稚魚の加入が期待される結果も得られた。

2017/2/9	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	9:30-10:08	10:34-11:20	11:50-12:45
水温(℃)	10.2	9.6	9.0
塩分	25.6	31.1	30.9
透視度(cm)	100 以上	100 以上	77.0
DO(mg/L)	8.6	9.1	8.9
DO飽和度(%)	90.6	97.3	94.2
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH	7.9	8.2	8.1
水の臭気	弱下水臭	無臭	無臭
備考	干潟は干出していなかった。 調査地点の透視度は高かった。 干潮の前後で調査を行った。	10 名程度の観光客がいた。 砂浜では、ユリカモメが休息していた。 調査地点の透視度は高かった。 上げ潮時に調査を行った。	干潟の面積は今年度で最も狭かった。 水鳥の数は少なかった。 上げ潮時に調査を行った。

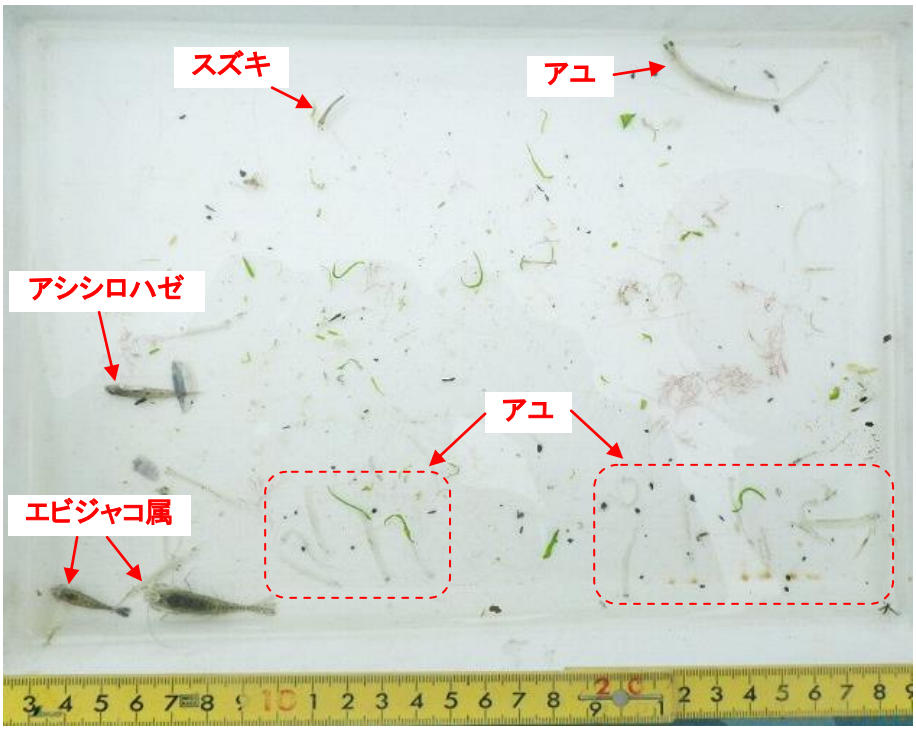
●主な出現種等　（速報のため、種名などは未確定）

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 （多い順[注]）	アユ(c)	アユ(r)	スズキ(r)
	スズキ(r)	スズキ(r)	
	アシシロハゼ(r)	ボラ(r)	
		ビリンゴ(r)	
魚類以外	ニホンイサザアミ(+) エビジャコ属(r)	ニホンイサザアミ(+) クロイサザアミ(r)	ニホンイサザアミ(+) ユビナガスジエビ(+)
備考	他に 2 種程度の仔魚が採取された。	他にコウロエンカワヒバリガイ、稚ガニ等が採取された。 地引網には、カブトクラゲが 20 個体程度入網した。	他にヨコエビ類等が採取された。 地引網には、カブトクラゲが 10 個体程度入網した。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋　採取試料



城南大橋西詰めにある小規模な干潟で、北側には東京港野鳥公園がある。調査時、干潟は干出していなかった。

●主な出現種等

川を遡上する前のアユの稚魚で、海で生活する間は、体の透明感が強い。
アユの産卵は、夏から秋にかけて河川中流の砂礫底で行われ、10 日～2 週間後に孵化する。孵化した仔魚は、卵黄を吸収しながら海に流下し、湾内で浮遊生活を送った後、干潟周辺に出現する。干潟域には体長 3～4cm になるまで滞在し、その後、河川を遡上する。
今回の稚魚調査では、城南大橋で最も多くのアユが出現し、大きさの異なる個体が採取された。

東京湾を代表する魚の一つ。
ハゼ科稚魚や甲殻類を食べながら急速に成長する。
稚魚の体色は黄色みを帯びていて、背側と腹側にある黒い色素が目立つ。

マハゼに似るが、うろこがやや粗く、体側には白色の横帯がある。
初夏～秋にかけて、河口域の沈石や貝殻の下面に産卵する。小型の甲殻類を食べるが、春には干潟域に多く出現し、マハゼの稚魚などを食べる。

内湾の砂泥底に生息し、魚類の稚魚などを捕食することが知られている。
砂の中に素早く潜り、身を隠す。体の模様も砂の色にそっくりである。

地引網に入網した細い糸状の紅藻類。東京湾では冬から春にかけてみられ、大きさは 20cm 程度になる。
色は暗赤色で、名前はその色を猩々（しょうじょう：赤い体をした伝説上の動物）の毛に見立てたもの。

お台場海浜公園　採取試料

レインボーブリッジのたもとにある人工の渚。台場公園や鳥の島で囲まれており、静穏な場所である。

●主な出現種等

※解説は、城南大橋を参照。
現地で確認された個体数は、城南大橋に比べ少なく、大きさも小型であった。

湾奥から湾央にかけての河口域や潟湖に主に生息し、動物プランクトンを食べている。お台場海浜公園では、周年みられる種の一つ。調査時は産卵期に当たり、抱卵個体が採取された（産卵期：2～4 月）。

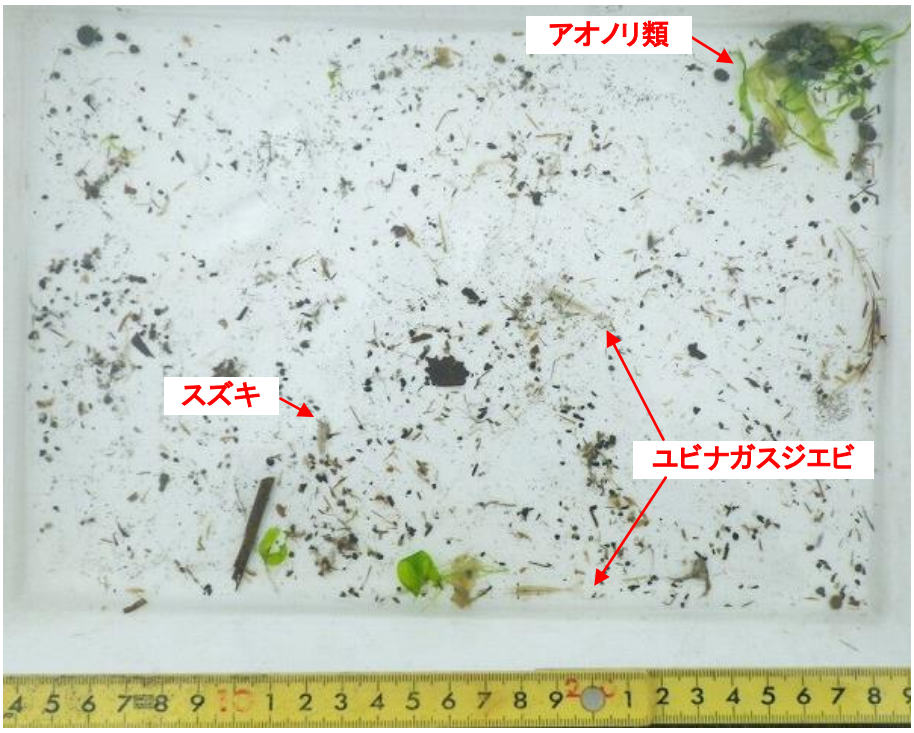
※解説は、城南大橋を参照。

内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。
干潟域には、早秋から夏にかけて滞在し、徐々に成長する。
稚魚の体色は、金属光沢が強い。

汽水域に生息するアミの仲間（エビの仲間でない）である。
お台場海浜公園では、ニホンイサザアミとクロイサザアミが出現した。
クロイサザアミ（上）は、その名の通り、ニホンイサザアミ（下）に比べ黒っぽい色をしている。

外来種で、東京湾では代表的な付着生物である。ムラサキイガイよりも小型で淡水の影響の強い水域に多く、転石や護岸に付着する。
海底の礫に付着していたものが採取された。

葛西人工渚　採取試料



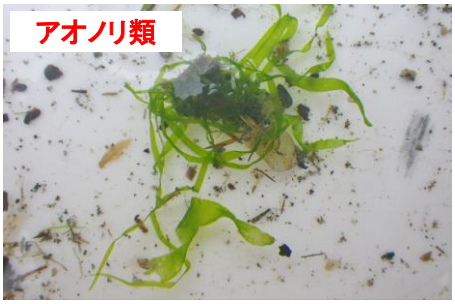
東京湾奥にある広大な人工干潟。
一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。

●主な出現種等

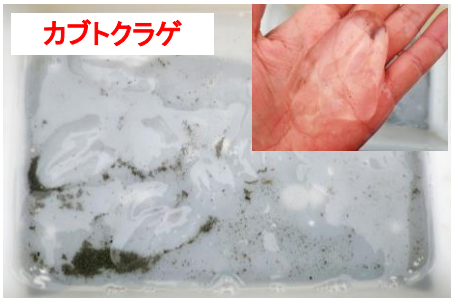
※解説は、城南大橋を参照。

汽水域に生息する小型のスジエビ類で、体長は 5cm 程になる。体には明瞭な縞模様はない。
外洋に面した潮溜まりなどでは、同じ仲間のイソスジエビがみられる。

体長 1～2cm 程になるヨコエビの仲間。泥～砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。
東京湾では最も普通にみられるヨコエビの一つ。



アオサの仲間（緑藻類）。東京湾湾奥の河口等の汽水域では、スジアオノリ、ボウアオノリ、ヒラアオノリ等が生育する。
食用になり、乾燥させて粉末状にしたものが「青のり」である。



日本近海で最も普通にみられるクシクラゲ類（繊毛が列になった櫛板で遊泳するクラゲ類）。体長は 10cm 程になる。
一つ一つの個体は大変柔らかくくずれやすいが、大群となって、底引網等にかかり、漁業の妨げになることがある。